

しょうれん 力障連「わ」^{かい}報^{ほう}

<http://challenged-catholic.net/> No.105 2025. 7 .22 ^{はっこう}発行

もくじ 目次

かんとうげん 福音的配慮とは	かいしさい しょうれんきょうりよくしさい はなふさ りゅういちろう	イエズス会司祭、力障連協力司祭 英 隆一郎	1
しょうれんごもんしきょう こうたい し 力障連顧問司教さま交代のお知らせ	じむきょくちょう こいけ まさお	事務局長 小池 政男	3
ねん ど けんしゅう かいさいあんない 2025年度 研修セミナー開催案内	けんしゅう たんとく かんじ あおの ち えみ	研修セミナー担当、監事 青野知恵美	4
ねん しょうれんふくおかたいかいがいさいけつてい し 2029年力障連福岡大会開催決定のお知らせ	じむきょくちょう こいけ まさお	事務局長 小池 政男	5
ねんとかめいだんたいけんこうがんがいほうこく 2025年度加盟団体意見交換会報告	じむきょくちょう こいけ まさお	事務局長 小池 政男	9
しょうれん よろこ あふ で あ ふくおかきょうくしょう ぶもんたんとうしさい 力障連が喜び溢れる出会い	ダ ロイト シルバノ 神父	福岡教区障がい部門担当司祭	10
おこな な 行いが無ければ	きょうあいかい じむきょくちょう すずき ひ み こ	共愛会 事務局長 鈴木陽美子	11
じょうほうほしょう 情報保障とオンラインについて	ふくかいちょう たなか み の る	副会長 田中 実	12

かんとうげん 巻頭言

ふくいんてきはいりよ 福音的配慮とは

かいしさい しょうれんきょうりよくしさい
イエズス会司祭、力障連協力司祭

はなふさ りゅういちろう
英 隆一郎

ぞん しょうがいしゃ たい ごうりてき
ご存じのとおり、障害者に対する合理的
はいりよ ほうてき ぎ む か しゃかいぜんたい すこ
配慮が法的に義務化され、社会全体が少しず
か きたい ごうりてき
つ変わっていくことを期待している。合理的
はいりよ しょうがいしゃ けんじょうしゃ おな けんり
配慮は、障害者にも健全者と同じ権利がある
こうきょうしせつ こうつうしゅだん
ので、公共施設・レストラン・交通手段など、
ひつよう はいりよ しょうがいしゃ さべつ
必要な配慮をして、障害者が差別されること
なく、利用できることを目指している。ミサ
きょうかい かつどう しょうがいしゃ ごうりてきはいりよ
や教会の活動について、障害者に合理的配慮
を するの は 義務 となった。合理的配慮は どちら
らか というと、^{がいめんてき} 外面的なもの ^{ととの} を整えることに
おも 重みがあるように見える。確かに聴覚障 害

しゃ さんか あつ しょうわつうやく
者が参加する集まりならば、手話通訳や
ようやくひつき てはい もと
要約筆記を手配することが求められる。

わたし たん がいてき
私たちクリスチャンとしては、単なる外的
めん ところ かた たましい
な面だけでなく、心のあり方というか、魂の
ひび あ なに ものた き
響き合いがなければ、何か物足りない気がする。
それをあえて言うならば、^{わたし} 私たちにはさ
らに福音的配慮が求められているのではない
だろうか。

ふくいんてきはいりよ なに すこ せつめい
福音的配慮とは何かを少し説明しておきた
ひとこと い しょうがい とお
い。一言で言うと、障害とのかかわりを通して
ふくいん よろこ み わ あ
て、福音の喜びを見だし、分かち合ってい
はいりよ ところ かんが
ける配慮を心がけることだと考えている。

しょう かんが しょう
マタイ18章から考えてみよう。この章は、
きょうかい しぼく ひと ところ しる
教会で司牧する人の心がまえをまとめて記し
てあると言われている。原則ははっきりして
いる。「子どものようになる人が、^{ひと} 天の国で
いちばん偉いのだ」(マタ18、4)。^こ 子ども

のような小さな者が一番神の国に近いという。障害者は、障害ゆえに小ささを共有している。その小ささにこそ、福音的な価値があるというのだ。これが何よりも大切な原則だ。

障害者は自らの障害の中に、福音的価値を見いだしているだろうか。この世的に見れば単なるハンディにすぎないが、神の目から見ればどのような恵みがあるだろうか。また、支援者は、障害者とのかかわりの中で福音的価値を見いだしているだろうか。単にかわいそうだなと感じるあわれみの心だけでなく、障害の中に隠されている宝を見ているだろうか。

そこから第2の原則が生まれる。それは、「小さな者を1人でも軽んじないように気をつけ（18、10）、「迷い出た1匹を見つけるまで捜しに行く」（18、12）態度をとることだ。つまり、障害者のような小さな者に特別の配慮を示すことにつながってくる。

第1と第2の両方の原則が実現されるとき、福音的配慮がなされたと言えるだろう。弱い者や小さい者にある福音を見いだし、そ

れを育てていく特別な配慮が意識していくことなのだ。では、改めて問いかけてみよう。

質問1.

—障害当事者に：自らの障害を生きる中で、信仰の観点から、どのような福音的喜び・生きがい・希望を見いだしているか
—障害支援者に：障害者とかかわる中で、信仰の観点から、どのような福音的喜び・生きがい・希望を見いだしているだろうか。

質問2.

—福音の宝を見いだし、掘り出していくために、障害者はどのような配慮を心がけたらよいのか。
—福音の宝を見いだし、掘り出していくために、支援者はどのような配慮を心がけたらよいのか。

この2つの質問に答え、仲間と分かち合いながら、教会の中で福音的配慮を実現していきたいと願っている。



力障連顧問司教さまの 交代のお知らせ

じむきょくちょう 小池 政男
事務局長

いまま えだまんようすうききょう おおさか たかまつ
今まで前田万葉枢機卿さま（大阪・高松
きょうく どうかい こもんしきょう ねが
教区）に当会の顧問司教をお願いしており
ましたが、定年を迎え、交代の要請を受け、
こうにん にいがたきょうく なるいだいすけしきょう ねが
後任に新潟教区の成井大介司教さまにお願い
することが出来ましたのでお知らせいたしま
す。

なるい だいすけしきょう
パウロ 成井 大介司教



けいれき
経歴

ねん がつ か あいちけんいわくらし たんじょう
1973年11月24日：愛知県岩倉市で誕生
ねん なんざんだいがくそつぎょう
1997年：南山大学卒業
ねん がつ か しんげんしゅうどうかいしゅうせいせいがん
2000年3月9日：神言修道会終生誓願
ねん がつ か さいじじょかい なごや なんざん
2001年3月10日：司祭叙階（名古屋・南山
きょうかい
教会）

ねん がつ ねん がつ しんげんかいしんがくせい
2006年4月～2011年3月：神言会神学生
ようせいたんどう なごや
養成担当（名古屋）

ねん ねん ひしよ
2006年～2013年：カリタスジャパン秘書

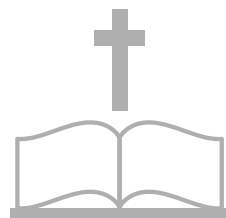
ねん ねん せんたいききょうく
2011年～2013年：仙台教区サポートセン
ター

ねん がつ ねん がつ しんげんしゅうどうかい
2012年10月～2020年5月：神言修道会
そうほん ぶ せい ぎ へいわ
総本部正義と平和（JPIC）コーディネー
ター

ねん がつ にち しきょうじょかい にいがたきょうく
2020年9月22日：司教叙階（新潟教区）

まえたまんようすうききょう
前田万葉枢機卿さま
なが あいだたいへん せ わ
長い間大変お世話になりました。ありがと
うございました。

なるいしきょう
成井司教さま
こんごいろいろ せ わ よろ ねが
今後色々とお世話になりますが宜しくお願
い申し上げます。



2025年度 研修セミナーの案内

けんしゅう たんどう かんじ
研修セミナー担当、監事

あおのちえみ
青野知恵美

さくねん おおさか しきょうかん のとはんとうじしん
昨年は大阪の司教館で能登半島地震をテー
まに開催されましたが、今年は東京の四谷に
あるニコラバレで開催致しますので多くの方
の参加をお待ちしております。

（詳細は次ページ→）

日本カトリック障害者連絡協議会セミナーのご案内

『合理的配慮から、ともに歩むシノドスの教会を目指して』

講師：第一部・英隆一郎神父（イエズス会士）

日本カトリック連指導司祭として、福音的配慮を提唱しその普及に尽力中。

第二部 西村桃子さん（セルヴィ・エヴァンジェリー会員）

2023年10月にローマで開催されたシノドス（世界代表司教会議）の通常総会で、教皇フランシスコ自身により議長代理に任命されました。

障害者差別解消法が改正され、2024年4月より障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されました。しかし私たちが目指すのは、単に「合理的」ではなく「福音的」配慮を大切にする教会、そして進む道とともに考えるシノドスの教会です。今回のセミナーでは、私たちが目指す『福音的配慮』と、教皇フランシスコの元で行われた『霊における対話』などシノドスについて学びたいと思います。

日時：2025年9月20日（土）午後1時から4時

会場：ニコラ・バレ修道院1階（四ツ谷駅より徒歩1分・東京都千代田区六番町14-1）

開催方法：会場とオンライン（Zoom）のハイブリッド開催・手話と要約筆記付き

参加費：無料

申込方法：以下のフォームまたはQRコードからお申し込みください

<https://forms.gle/xa3knTy2w9gk8aBn8>



定員：会場参加：先着30名・オンライン参加：先着20名

申込受付期間：2025年8月1日～8月31日（ただし定員になり次第締切ります）

主催：日本カトリック障害者連絡協議会（日本カトリック連）

協力：東京カトリック障害者連絡会

問い合わせ：日本カトリック障害者連絡協議会（セミナー担当：青野）

(e-mail) tokyo.kasyoren.regi@gmail.com

ねん しょうれんふくおかぜんこくたい 2029年力障連福岡全国大 かいかいさいけつてい し 会開催決定のお知らせ

じむきょくちょう こいけ まさお
事務局長 小池 政男

らいねん ねん がつ か ど にち
来 年 の2026年11月14日（土）～15日
（日）には名古屋で第15回全国大会が開催さ
れることになっていますが、今回は嬉しいこ
とに、その3年後の2029年には福岡教区で
ぜんこくたいかいかいさい けつていた
全国大会開催が決定致しました。

うれ
嬉しいことです。この大会決定に関しては
ふくおかきょうく わか しかくしょうがいしゃ かた ねん
福岡教区の若い視覚障害者の方が2023年に
かいさい ながさきたいかい さんか
開催された長崎大会に参加してくださいまし
た。

かた ねんまえとつぜんめ み
その方は5年前突然目が見えなくなりました。
た。そして悩んだそうです。そして色々な
ところを回り、その後福岡教区の熊本のある
きょうかい なん すく もと にゅうしん
カトリック教会に何とか救いを求め、入信の
べんきょう ねっしん とき しょうれん そんざい
勉強を熱心に行っている時に、力障連の存在を
し
知り、そして力障連の長崎大会に行きたいと
しんと かた はな
信徒の方に話したそうです。

おも
その思いは、力障連全国大会に行けば、何
かが変わると信じましたということです。

き しんと ひと しかくしょうがい
それを聞いた信徒の人たち、視覚障害、
ちょうかくしょうがいしゃ ささ ひと
聴覚障害者、さらに支える人たちと
しゅにんしさい しんぶさま ちから あ
主任司祭のシルバノ神父様の力を合わせて
「アルバの会」を立ち上げました。アルバと
はイタリア語で「朝日が上がる前の白々とし
ひかり
た光」ということだそうです。シルバノ
しんぶさま しゅっしん しんぶさま
神父様はイタリア出身の神父様です。

さんこう
参考

しょうれん ながさきたいかい さんか よろこ
力障連の長崎大会に参加して下さり、喜びのメッ

ページを機関誌「わ」101号（2024. 4. 16
はっこう けいさい
発行）に掲載しております。

しょうれん ねん やくいんかい なごや
力障連としては2024年の役員会で名古屋
あと たいかいこうほ だい かいさい
の後の大会候補として第1にまだ開催されて
いない福岡教区にお願いすることになり、ま
ながさき さんか しかくしょうがいしゃ かた れんらく
ず長崎へ参加された視覚障害者の方に連絡し
たら、ぜひ福岡で開催して欲しいとの意向を
う
受け、シルバノ神父様に相談しシルバノ
しんぶさま しきょうさまなどかんけいしゃ れんらく
神父様が司教様等関係者へ連絡してくださ
り、今年の2月の福岡教区の宣教司牧評議会
ことし がつ ふくおかきょうく せんきょうしほくひょうぎかい
で力障連としての開催要望の趣旨を説明させ
て頂くことが出来ました。感謝です。

せつめいぶん い か とお
その説明文は以下の通りです。

ふくおかきょうく しきょう
福岡教区アベイヤ司教さまへ
ふくおかきょうくせんきょうしほくひょうぎかい みな
福岡教区宣教司牧評議会の皆さまへ

ねん がつ か
2025年2月2日

ねん だい かい しょうれんふくおかぜんこくたいかいかいさい
2029年に第16回力障連福岡全国大会開催の
ねが
お願い

にほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかい
日本カトリック障害者連絡協議会
りやくしょう しょうれん
(略称力障連)

かい ちょう え ど とおる
会 長 江戸 徹
せつめいしゃ じむきょくちょう こいけ まさお
説明者 事務局長 小池 政男

しゅ へいわ
† 主の平和

ひごろ どうかい かつどう りかい しえん いただ
日頃から当会の活動にご理解とご支援を頂
ありがと
き有難うございます。

ほんじつ きちよう かいぎ なか わたし
さらに、本日は貴重な会議の中で、私ども
しょうれんぜんこくたいかい せつめい じかん いただ かんしゃ
に力障連全国大会の説明の時間を頂き感謝し
ております。

I 力障連の設立

当会は、今から44年前の1981年にヨハネ・パウロ二世の来日に合わせて全国の障害者団体が一堂に集まり、障害者が「ミサへの完全参加」と、どんな障害を持っていたとしても生まれて来て良かった、生きていて良かった、と思って頂けるような活動をするために、翌年京都で全国大会を開催し設立致しました。

II 全国大会

1 全国大会は基本的に3年ごとに開催しています。

当会としては、全国大会を日本の全教区で開催し、障害者への理解と支援、さらに障害者の活動を支えるために障害者団体を立ち上げて頂き、力障連の加盟団体としてお互いの情報交換を行いながら活動を深めていくことを願っています。

2 未開催教区

既に全国大会は、本州の全教区と札幌教区で開催しており、残すは九州の福岡、大分、鹿児島と那覇教区だけとなっております。

3 第14回長崎全国大会

九州地区では2023年に初めて第14回長崎全国大会で開催させて頂きました。

長崎大会は、コロナ禍の中で集まりを持つことが出来ませんでした、2年の延長で開催して頂くことが出来ました。その大会に福岡教区の方も参加して頂き私も喜んでおります。

4 次回 第15回名古屋全国大会

次回の第15回名古屋全国大会は、来年の

2026年11月14日（土）から15日（日）に名古屋では2回目になりますが、開催して頂くことになり、準備が進められています。

ぜひ福岡教区の皆さまもご参加頂ければありがたいと思っております。

その名古屋大会の最後に3年後の2029年に第16回全国大会開催地の発表させて頂き、引継式を予定しております。

5 第16回福岡全国大会開催のお願い

①今から4年後になりますが、ぜひとも、まだ開催されていない福岡教区で開催して頂けないかとお願ひしているものです。

②福岡教区で開催して頂く場合は、一人でも多くの皆さまに障害者への理解、支援、そして大会への参加、全国から一人でも多く参加してもらうための交通費補助が慣例になっているので寄付のお願い、さらに大会後も障害者が活動を続けていくために、障害者団体を立ち上げて頂きたいということであります。

6 障害者は中々教会に来られない

①教会では障害者の姿が見られないと思います。ですが、日本の2024年度の障害者白書から全人口の9.2%が障害者と言われております。ですから教会に100人の信徒がいるとすれば9人の障害者がいることとなります。

②教会に障害者がいないのではなく、来られないのです。

身体障害者や視覚障害者は一人では教会に来られません。介添え者が必要です。

③教会に来て段差や階段があったり、障害者トイレがなければ大変な思いをしま

す。

聴覚障害者は神父様が説教されても聞こえ
ません。ノートテイク、手話、要約筆記等
のコミュニケーションツールが無ければ何
を言っているのか分かりません。
視覚障害者は「聖書と典礼」、「ミサ
司式書」や「お知らせ」等の印刷物は、
点訳や音訳にしてもらわないと分かりませ
ん。

この様に送迎体制、バリアフリー、コミュ
ニケーションツールが無いと教会に来られ
ないのが現状だと思います。

Ⅲ 「障害者権利条約」と「障害者差別 解消法」

1 障害者権利条約

国連で2006年に「障害者権利条約」が
採択されました。

この条約は全世界での障害者の対応の基本
が制定されました。

日本では、この条約を批准するために
2013年に「障害者差別解消法」を制定し、
翌年批准致しました。

2 障害者差別解消法

この条約及び法律は、従来の健常者中心の
社会から、障害者を含めて共生社会を創るこ
とを目的にしたものです。

社会が誰にでも優しく幸せに生きるための
ものです。

この条約及び法律は、従来は障害は、障害
者自身の個人的な問題と長く考えられてきま
したが、逆に障害者が日々の生活や活動が
出来ないということは、社会に問題があると

いう「個人モデルから社会モデルに」180
度、考え方が変わりました。

「障害者差別解消法」は当初2013年に成立
しましたが、その時は障害者からの要望に対
して、行政は「義務」として対策を取らなけ
ればなりませんでした。民間は「努力義務」
でした。

しかし、2021年に法律が一部改正され
2024年4月1日から民間においても障害者
からの要望に対して「義務」として対応しな
ければならないことになりました。

教会も民間ですので「義務」扱いになった
ということです。ぜひこのことをご理解頂
きたいと思っております。

この「障害者差別解消法」も教会では
なかなか理解されていないために、当会としては
「手引き」を作り、次回の名古屋大会で発表
したいと考えております。

またぜひ司教団とも打ち合わせをさせて頂
き、広く教会に活用して頂ければと願ってい
ます。

Ⅳ シノドス（ともに歩む）的会話の推進

1 バチカンのシノドス会議

今回のバチカンでのシノドス会議は、従来
のやり方を大きく変えて枢機卿さまや司教さ
まだけでなく、女性や信徒等が加わり「霊に
おける会話」で開催され、最終文書として
「宣教するシノドスの教会になるために」の
シノドス的会話の進め方がまとめられたよう
です。

2 シノドス（ともに歩む）的会話の推進

この最終文書にそって、全世界でシノドス

てき かいわ すす おも
的会話が進められていくと思います。

福岡教区としても、その「ともに」の中に、
ぜひ障害者も加えて頂き、「シノドス的」
教会を構築して頂きたいと当会としても願っ
ております。

福岡教区の皆さんにも上記の状況の中で、
ぜひとも第16回カ障連福岡全国大会を開催
して頂き、「障害者差別解消法」及び「シノ
ドス的」教会の構築をぜひお願い申し上げます。

3 合理的配慮（法的には合理的配慮＝
当会福音的配慮）

障害者等の意見や要望を聞いて頂き対応
（合理的配慮＝福音的配慮）することにより、
現在健常者と言われている人でも、高齢にな
れば足腰が弱り、車椅子生活等になったり、
耳や目が衰えて教会に来られなくなったり、
神父さまの説教等を聞くことが出来なくなり
ます。しかし障害者の希望を聞き、対応
（合理的配慮＝福音的配慮）することにより、
誰でもが高齢化になっても教会に来られ、
神父さまの説教を聞くことや活動出来る、や
さしい教会を構築することが出来ると思いま
す。

そのヒントが障害者と共に歩むことで得ら
れることが出来るのです。

V 全国大会開催に当たっての具体的な取り
組みについて

大会開催に当たっては教区内の障害者、支
える人、理解して頂いた人、教区からの
推薦者等で実行委員会を設立して頂き、カ
障連と共に開催日時、会場等具体的な

開催内容を検討していきたいと考えておりま
すので宜しくお願い致します。

なお当会から開催に当たっての資金として
120万円を提供させて頂きます。

さらに横浜大会実行委員会から、今後寄付
が集まらなかった場合に活用して欲しいと
多額の寄付が各開催地に引き継がれていま
す。

VI 当会の役員及び機関誌の発行等

1 当会の役員

顧問司教：前田万葉枢機卿さま（大阪・
高松）

協力司祭：英 隆 一朗神父さま（大阪・
高松）

会 長：江戸 徹（名古屋、肢体障害・
交通事故で下半身不随）

その他役員12名プラス次回の名古屋大会
実行委員会代表1名

障害別では、肢体障害、視覚障害、
聴覚障害、吃音障害等

役員会は、1～2ヶ月間隔でオンラインで
開催し、加盟団体意見交換会と研修セミナー
は対面とオンラインのハイブリッド方式で
開催しています。

2 機関誌「わ」

機関誌「わ」は、年3回約3,000部発行し、
全国の全ての教会及び修道院及び会員に送付
しております。ぜひご覧になって頂ければ幸
いです。

3 当会の活動資金は、顧問司教さまから
毎年12月に、全国の教会や修道会等に当会
の活動報告と活動を支えるための寄付のお願い

いじょう　せつめい　お　いただ　なに
以上で説明を終わらせて頂きますが、何か
しつもん　わ　はんい　こた　おも
質問があれば分かる範囲でお答えしたいと思
います。

ほんとう お かんしゃ
本当にすごいことが起きました。感謝です。

ことし かめいだんたいいけんこうかんかい
そこで今年の加盟団体意見交換会にはアル

かい ながさきたたいかいご かめいだんたい あ
バの会と長崎大会後に加盟団体立ち上げに

どりよく き しょうれん だんたい
努力して来た「力障連ながさき」の2団体を

とくべつしょうたい いただ すば かめいだんたい
特別招待させて頂き素晴らしい加盟団体の

いけんこうかんかい かいしや かんしゃ
意見交換会が開催されました。感謝です。

じむきよくちょう
事務局長

こいけ
小池

まさお
政男

そして、^{たいめん}対面とオンラインを^あ合わせて^{かいさい}開催

事前に細かくZoomアプリのインストール
等を含めて丁寧に説明しておくべきだったと
感じました。

力障連が喜び溢れる出会い

福岡教区障がい者部門担当司祭

ダロイト シルバノ神父

「ここにいる皆さんが他の人たちや障害者のためにしていることはとても美しい。それはすべて福音に沿ったものです。これこそがキリスト信者の仕事です。大げさなことをするのではなく、私たちが生きる喜びと信仰を伝えるべき場所で、具体的に可能なことをジミーでするのです。忍耐と謙遜をもって援助し続けることが私たちの仕事であり、主があとのことを引き受けてくださるでしょう。皆さんに感謝します。」

2025年4月25日と26日にかけて行われた力障連代表者会議に参加できたことへの感謝と喜びを、会議の終わりにこのような言葉で表現した。私は直接参加することができず、Zoomを通しての参加となった。

私の所属する福岡教区からは、菊池山鹿教会の春木さん（アルバの会）と小南さんが出席しました。私たち3人は初めての特別ゲストだった。

事務局小池さんのリーダーシップのもと、さまざまなスピーチの冒頭から、日本全国から招集された代表者たちの間に、兄弟愛のような素晴らしい雰囲気が漂っていたのが印象的だった。

私たち福岡の代表は初参加だが、他の代表は40年にわたる障害者支援活動の経験を持っている。それゆえ、各グループの

年次活動についての共有が素晴らしい雰囲気の中で行われたのも理解できる。

誰もが、内容的にも正確な知識的にも充実した経験を自由に語った。質問もシンプルに投げかけられ、すぐに啓発的な答えが返ってきた。

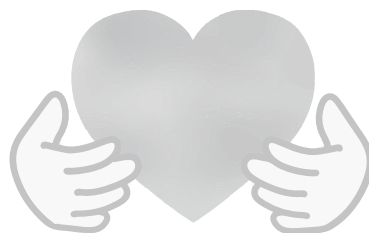
障害を負いながらも普通に暮らそうとする兄弟姉妹と一緒に働き、忙しくすることの喜びは、さまざまな組織で自分自身が効果的に貢献することによって、他の人々がよりよく生きるのを助ける喜びと同様に、手に取るように分かった。

これは継続的で絶え間ない問題ではあるが、参加者全員にとって信仰に生きる喜びを新たにする方法でもあると思った。

私はすべての話を注意深く聞き、また発言もした。聖霊の臨在が感じられ、参加者の上に漂っていた。

復活の8日の期間中ということもあり、復活した主と弟子たちとの出会いが起こっているように思えた。また、シノダリティのやり方を初めて導入されて、力障連の組織をどのように前進させるかについても話し合われた。

次の全国大会は2026年に名古屋、2029年に福岡で開催される予定です。私たちの歩みと手の働きを主が支えてくださいますように。



おこな ともな 行いが伴わなければ…

かめいだんたいいけんこうかんかい さんか
(加盟団体意見交換会に参加して)

きょうあい じむきょくちょう すずき ひ み こ
共愛会 事務局長 鈴木陽美子

ことし きょうあい
今年から共愛会（カトリックさいたま
きょうくしやう しゃれんらくきょうぎかい じむきょく ひ つ
教区障がい者連絡協議会）の事務局を引き継
ぎ、初めてカ障連の加盟団体意見交換会に
さんか
参加させていただきました。

しょうれん さまざま だんたい かた な ご や かいじやう
カ障連の様々な団体の方と、名古屋の会場
とZoomで、実際のお話を聞く機会をいただ
いたことに感謝しております。

しょうれん おお かめいだんたい
カ障連にこれほど多くの加盟団体があるこ
とを初めて知りました。また、会場の設営、
じゅんぴ ようやくひつき じんりよく かんけいしや
準備、要約筆記にご尽力くださった関係者の
みなさま こころ かんしゃもう あ
皆様に心より感謝申し上げます。

しょにち かめいだんたい だいひやうしや かつどうほうこく
初日に加盟団体の代表者からの活動報告を
き み め わ さまざま しょうがい
聞き、見た目だけでは分からない様々な障害
があり、障害、と一口に言っても人がみんな
ちが 違うようにそれぞれ同じではないことが分か
りました。

わたし し だいじ しょうがい
私たちはまず「知ること」が大事、障害だ
けでなく相手のことも。

とうじしや しやうい なに
そして当事者も周囲に何をしてほしいのか
をし 知らせしてほしいと思います。

おお きょうかい しょうがいしや かべ つく
多くの教会が障害者に壁を作っているの
は、知らないことから起きる誤解や無理解に
いちいん も一因があります。ともに歩むには何ができ
るのか、どうしたら一緒に楽しく時間を共有
できるのか、福音に生きる私たちが障害者の
いけん き くふう だいじ
意見を聞いて工夫をしていくことも大事で
しょう。

こんかい とく いんしやうてき くまもと
今回、特に印象的だったのは、熊本のア
バの会の若い（教会では）男性。ある
ひとつぜんびやうき たお ぜんもう かた
日突然病気で倒れ、全盲になった方です。
きょうかい みちび しんぶさま せい
教会に導かれシルバノ神父様（聖ザベリオ
せんきやうかい で あ すく しんこう ちから
宣教会）と出会ったことで救われ、信仰の力
で苦難を乗り越えた体験を語りました。

しんぶさま えいきやう かれ
神父様の影響で、彼がモットーとしている
おこな ともな しんこう
「行いが伴わないなら、信仰はそれだけでは
し
死んだものです。」（ヤコブ2. 17）を、そ
こうどうりよく あか
の行動力で証ししています。

たいけん はな うた いの かい
あちこちで体験を話したり、歌や祈りの会
をつ せつきよくてき なかま ふ かつどう
を通じて積極的に仲間を増やす活動をしてい
すがた かんどう
る姿に感動しました。

わたしたち ひごろ きょうかい しんじや ふ わか
私達は日頃から教会に信者が増えない、若
ひと こ ふまん い なげ
い人が来ない、と不満を言って嘆いているだ
けで実際には何もしていない、行動が伴って
いなかったことを深く反省しました。

よくじつ しょうれん かだい
翌日のカ障連のこれからの課題についての
わ あ おお かた しょうれん
分かち合いでは、多くの方から、カ障連は
きょうかいない し しゅうち
教会内であまり知られていない、もっと周知
させるべき。それにはPRの仕方を工夫したり、
あきら あたら なかま ふ どりよく ひつよう
諦めずに新しい仲間を増やす努力が必要
との意見が出ました。

「まず仲間を知ること、互いの違いを認め
あ 合うことで、そこから一歩踏み出すことが
だいじ さとうりやうしんぶさま ことば
大事」との佐藤了神父様の言葉や、シルバノ
しんぶさま きょうかい き
神父様の「教会にミサごっこに来てちゃダメ」
よろこ かん かい ふくいんせんきやう かい
「喜びを感じる会、福音宣教する会」になる
ようにという提言を忘れないようにしたいと
おも
思います。

らいねん ぜんこくたいかい おお ひと
来年の全国大会には、より多くの人たちが
さんか しょうれん かつどう し
参加してカ障連の活動を知ってくださるよう
せいれい ねが
聖霊のはたらきを願います。

情報保障とオンラインについて

副会長 田中 実

過去（かこ）の力（りき）障（しょう）連（れん）障（しょう）害（がい）者（しゃ）ア（あ）ン（ん）ケ（け）ー（ー）ト（ト）結（け）果（か）に（に）お（お）い（い）て（て）情（じょう）報（ほう）保（ほ）障（しょう）の（の）遅（おそ）れ（れ）は（は）顕（けん）著（ちやう）に（に）な（な）っ（っ）て（て）い（い）ま（ま）し（し）た（た）。

今（いま）は（は）オ（お）ン（ん）ラ（ら）イ（い）ン（ン）イ（イ）ベ（べ）ン（ン）ト（ト）や（や）Z（ぞう）o（お）o（お）m（む）会（かい）議（ぎ）の（の）増（ぞう）加（か）に（に）よ（よ）っ（っ）て（て）、情（じょう）報（ほう）保（ほ）障（しょう）の（の）遅（おそ）れ（れ）は（は）形（かたち）を（を）変（か）え（え）て（て）増（ふ）え（え）て（て）い（い）ま（ま）す（す）。

障（しょう）害（がい）の（の）あ（あ）る（る）方（かた）や（や）高（こう）齢（れい）の（の）方（かた）に（に）は（は）パ（ぱ）ソ（そ）コ（こ）ン（ン）や（や）ス（す）マ（ま）ホ（ほ）な（な）ど（ど）新（あたら）しい（い）ツ（つ）ー（ー）ル（る）を（を）使（つか）い（い）こ（こ）な（な）せ（せ）ない（い）こ（こ）と（と）も（も）起（お）き（き）て（て）い（い）ま（ま）す（す）。な（な）か（か）な（な）か（か）使（つか）い（い）切（き）る（る）ま（ま）で（で）の（の）入（い）り（り）ぐ（ぐ）ち（ち）躊（ちゆう）躇（ちよ）し（し）て（て）い（い）る（る）状（じょう）況（きやう）も（も）あ（あ）る（る）よ（よ）う（う）で（で）す（す）。

でも、ITやSNSの普及（ふきゅう）は使（つか）え（え）る（る）よ（よ）う（う）に（に）な（な）れ（れ）ば（は）逆（さか）に（に）便（べん）利（り）に（に）な（な）り（り）生（せい）活（かつ）上（じやう）の（の）障（しょう）害（がい）ハ（ハ）ン（ン）デ（で）ィ（ィ）を（を）減（へ）ら（ら）す（す）こ（こ）に（に）も（も）繋（つな）が（が）り（り）ま（ま）す（す）。実（じつ）際（さい）に（に）使（つか）っ（っ）て（て）み（み）る（る）と（と）こ（こ）れ（れ）は（は）便（べん）利（り）だ（だ）と（と）の（の）感（かん）想（さう）を（を）も（も）つ（つ）場（ば）合（あ）が（が）多（おほ）い（い）よ（よ）う（う）で（で）す（す）。但（ただ）し（し）、文（ぶん）字（じ）や（や）キ（き）ー（ー）を（を）大（おほ）き（き）く（く）す（す）る（る）。操（そう）作（さ）を（を）簡（かん）略（りやく）に（に）す（す）る（る）。そ（そ）れ（れ）ぞ（ぞ）れ（れ）ソ（そ）フ（ふ）ト（と）・ハ（は）ー（ー）ド（ど）面（めん）で（で）使（つか）い（い）や（や）す（す）い（い）道（どう）具（ぐ）に（に）す（す）る（る）必（ひつ）要（よう）が（が）あ（あ）り（り）ま（ま）す（す）。

力（りき）障（しょう）連（れん）の（の）オ（お）ン（ん）ラ（ら）イ（い）ン（ン）（Zoom）会（かい）議（ぎ）で（で）も（も）、手（しゅ）話（わ）通（つう）訳（やく）及（および）要（よう）約（やく）筆（ひつ）記（ぎ）担（たん）当（たう）者（しゃ）の（の）協（きょう）力（りき）で（で）運（うん）営（えい）さ（さ）れ（れ）て（て）い（い）ま（ま）す（す）。

現（げん）場（ば）リ（り）ア（あ）ル（る）と（と）オ（お）ン（ん）ラ（ら）イ（い）ン（ン）（Zoom）の（の）併（へい）用（よう）（ハイブリッド）会（かい）議（ぎ）で（で）は（は）、リ（り）ア（あ）ル（る）現（げん）場（ば）会（かい）議（ぎ）上（じやう）で（で）は（は）各（かく）自（じ）発（はつ）言（げん）時（とき）に（に）必（かなら）ず（ず）ピ（ぴ）ン（ン）マ（ま）イ（い）ク（く）を（を）使（つか）っ（っ）て（て）オ（お）ン（ん）ラ（ら）イ（い）ン（ン）参（さん）加（か）者（しゃ）に（に）発（はつ）言（げん）が（が）聞（きこ）え（え）る（る）よ（よ）う（う）に（に）徹（てつ）底（てい）し（し）て（て）い（い）ま（ま）す（す）。発（はつ）言（げん）が（が）現（げん）場（ば）中（ちゆう）心（しん）に（に）な（な）り（り）オ（お）ン（ん）ラ（ら）イ（い）ン（ン）参（さん）加（か）者（しゃ）が（が）置（お）き（き）去（さ）り（り）に（に）な（な）る（る）こ（こ）と（と）を（を）防（ふ）ぐ（ぐ）た（た）め（め）で（で）す（す）。

オ（お）ン（ん）ラ（ら）イ（い）ン（ン）（Zoom）参（さん）加（か）者（しゃ）で（で）ス（す）マ（ま）ホ（ほ）を（を）使（つか）っ（っ）て（て）参（さん）加（か）す（す）場（ば）合（あ）は（は）、必（かなら）ず（ず）事（じ）前（ぜん）に（に）Zoomを（を）ス（す）マ（ま）ホ（ほ）に（に）イ（い）ン（ン）ス（ス）ト（ト）ー（ー）ル（る）し（し）て（て）お（お）く（く）必（ひつ）要（よう）が（が）あ（あ）り（り）ま（ま）

す。分（わ）か（か）ら（ら）ない（い）こ（こ）と（と）は（は）率（そつ）先（せん）し（し）て（て）聞（き）い（い）て（て）実（じつ）際（さい）に（に）オ（お）ン（ん）ラ（ら）イ（い）ン（ン）会（かい）議（ぎ）を（を）経（けい）験（けん）す（す）る（る）な（な）か（か）で（で）身（み）に（に）つ（つ）い（い）て（て）い（い）く（く）こ（こ）と（と）で（で）す（す）。も（も）ち（ち）ろ（ろ）ん（ん）、自（じ）分（ぶん）の（の）ス（す）マ（ま）ホ（ほ）や（や）パ（ぱ）ソ（そ）コ（こ）ン（ン）を（を）使（つか）い（い）こ（こ）な（な）す（す）必（ひつ）要（よう）が（が）あ（あ）り（り）ま（ま）す（す）。

現（げん）場（ば）リ（り）ア（あ）ル（る）と（と）オ（お）ン（ん）ラ（ら）イ（い）ン（ン）の（の）併（へい）用（よう）（ハイブリッド）会（かい）議（ぎ）で（で）は（は）、Wi-Fi環（かん）境（きやう）・音（おん）声（せい）・画（が）像（ざう）な（な）ど（ど）全（ぜん）体（たい）最（さい）適（てき）の（の）会（かい）議（ぎ）運（うん）営（えい）が（が）求（もと）め（め）ら（ら）れ（れ）ま（ま）す（す）。情（じょう）報（ほう）を（を）受（う）け（け）る（る）側（がわ）・発（はつ）信（しん）す（す）る（る）側（がわ）、念（ねん）入（い）り（り）に（に）操（どう）作（さ）を（を）確（かく）認（にん）し（し）て（て）お（お）く（く）必（ひつ）要（よう）が（が）あ（あ）り（り）ま（ま）す（す）。そ（そ）の（の）連（れん）携（けい）は（は）作（さ）業（ぎよう）マ（ま）ニ（ニ）ュ（ュ）ア（あ）ル（る）と（と）ス（す）キ（き）ル（る）熟（じよく）度（ど）が（が）求（もと）め（め）ら（ら）れ（れ）ま（ま）す（す）。

力（りき）障（しょう）連（れん）で（で）は（は）情（じょう）報（ほう）保（ほ）障（しょう）研（けん）究（きゆう）会（かい）を（を）発（はつ）足（そく）し（し）て（て）少（すこ）し（し）で（で）も（も）会（かい）員（いん）間（かん）の（の）コ（こ）ミ（ミ）ュ（ュ）ニ（ニ）ケ（ケ）ー（ー）ション（ション）確（かく）保（ほ）を（を）高（たか）め（め）、あ（あ）ら（ら）た（た）な（な）改（かい）善（ぜん）に（に）チャ（チャ）レ（レ）ン（ン）ジ（ジ）し（し）て（て）い（い）ま（ま）す（す）。生（せい）成（せい）A Iに（に）よ（よ）る（る）情（じょう）報（ほう）収（しゆう）集（しゅう）・資（し）料（りょう）作（さく）成（せい）・議（ぎ）事（じ）録（ろく）作（さく）成（せい）な（な）ど（ど）が（が）簡（かん）単（たん）に（に）で（で）き（き）る（る）よ（よ）う（う）に（に）な（な）り（り）ま（ま）し（し）た（た）。私（わ）た（た）ち（ち）も（も）時（じ）代（だい）の（の）進（しん）歩（ぽ）に（に）遅（おそ）れ（れ）て（て）は（は）な（な）り（り）ま（ま）せ（せ）ん（ん）。生（せい）活（かつ）ハ（ハ）ン（ン）デ（で）ィ（ィ）を（を）少（すこ）し（し）で（で）も（も）解（かい）消（しょう）す（す）る（る）ツ（つ）ー（ー）ル（る）は（は）使（つか）い（い）こ（こ）な（な）し（し）た（た）い（い）の（の）で（で）す（す）。

目（もく）標（ひょう）は（は）早（そう）期（き）に（に）会（かい）議（ぎ）や（や）イ（イ）ベ（べ）ン（ン）ト（ト）へ（へ）の（の）情（じょう）報（ほう）保（ほ）障（しょう）に（に）よ（よ）る（る）完（かん）全（ぜん）参（さん）加（か）を（を）目（め）指（さ）し（し）て（て）い（い）ま（ま）す（す）。何（なん）で（で）も（も）話（わ）し（し）合（あ）い（い）ま（ま）し（し）よ（よ）う（う）。わ（わ）か（か）り（り）あ（あ）い（い）ま（ま）し（し）よ（よ）う（う）。今（こん）後（ご）と（と）も（も）よ（よ）ろ（ろ）し（し）く（く）お（お）願（ねが）い（い）い（い）た（た）し（し）ま（ま）す（す）。

連絡先及びご入会の申し込み先

事 務 局：〒466-0037 名古屋市昭和区恵方町2-15
名古屋教区カリタス福祉委員会室内
日本カトリック障害者連絡協議会
Tel：052-852-1426 Fax：052-852-1422

郵便局振替口座番号：00100-7-31254

（同封の振込用紙をご利用ください）

会 費：年間1口 1,000円
（団体 10口以上 個人 1口以上）

加入者名：日本カトリック障害者連絡協議会